

豊かな緑で山梨の未来を創る！

2023
vol.36

ぞうえん山梨

LANDSCAPE YAMANASHI



表紙の解説：山梨県庁噴水広場の芝生によるリニューアル

CONTENTS

- | | | | |
|----------------------------------|-----|----------------------|-----|
| ● 会長・理事長あいさつ | P02 | ● 青年部の活動報告 | P10 |
| ● 定時社員総会 | P02 | ● 協会の動き | P11 |
| ● 農林高校出前講座・小庭園作り | P03 | ● 表彰 | P11 |
| ● 技術講習会・四阿の鉄平石乱張り | P03 | ● 全国都市緑化フェア視察記 | P12 |
| ● 長坂中学校出前講座
建設産業の魅力を伝える | P10 | ● 日造協山梨県支部の活動 | P13 |
| | | ● 組合の事業 | P14 |

特別寄稿

全国都市緑化フェアを契機とした緑のまちづくり



(一社)山梨県造園建設業協会 山梨県造園建設業協同組合



一般社団法人 山梨県造園建設業協会
山梨県造園建設業協同組合
会長・理事長 依田 忠

日頃より（一社）山梨県造園建設業協会及び山梨県造園建設業協同組合の活動に格段のご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

令和元年度より流行が始まった新型コロナウイルス感染症は未だ終息せず、現在第8波の影響が危惧されているところですが、感染防止対策に十分配慮しながら協会・組合活動を行っております。

そうした中、協会では造園建設業界の健全な発展と若手技術者の造園技術力を強化するための取組とともに人材育成事業や社会貢献事業にも力を注いでおります。

人材育成事業では、山梨県が主催する「建設産業担い手確保・育成産学官連携会議」に参加するとともに、県内の高校生を対象に造園技術の習得を図る出前講座を継続して実施し、こうした活動を通して行政機関や高校等教育機関との連携

を深めております。

また、昨年より県内の中学校においても樹木剪定の出前講座を始めており、これまで働きかける機会が少なかった中学生に対してもアプローチし、造園建設業を知ってもらう機会を作りたいと考えております。

社会貢献活動では、人々が集い自然と親しむ里山づくりを目指した「きづかいの森」事業として、公益財団法人オイスカと協働して甲州市塩山上小田原地内で「オルビスの森」整備に参画し、造園技術を生かして支援や技術協力を行っております。

さらに、親しみの持てる協会をアピールし造園建設業に対する理解を深めていただくため協会ホームページのリニューアルを行いました。

一方組合においては、指定管理者として県立武田の杜保健休養林の管理運営や、県の委託業務である「緑の相談所」を行なっております。

武田の杜サービスセンターでは森林を活用し心身の健康の維持・増進を図る森林セラピーや森に親しむ教室などの自然体験型イベントを開催し、鳥獣センターでは傷病鳥獣の保護や野生鳥獣写真コンクールなど野生鳥獣の生態への理解を深める事業を実施しました。

さらに、今年度は、県の補助のもと、新型コロナウイルス感染症拡大により観光客の減少などの影響を受けた昇仙峡の活性化を図るため、森林セラピーの後に昇仙峡の散策や水晶の研磨体験を行い甲府の自然と文化を楽しむ、森林セラピースペシャルツアーを開催し県内外から多くの方にご参加いただきました。

また、「緑の相談所」では、県内各地で緑の教室を開催し、身近な場所で緑化に関する学習機会を提供し、楽しみながら緑の重要性と緑化の意義を学んでいただきました。

今後も造園建設業が地域に根差した産業としてその社会的使命を果たしていくとともに、災害が発生した場合、山梨県との防災協定に基づき地域の守り手として円滑な復旧活動に協力して参ります。

また、建設業の中で唯一生き物を扱う業種として、造園力（ゆるぎない技術力、洗練された文化力、豊かな想像力）の向上を図り、人と自然が共生する緑豊かで持続可能な社会の形成に貢献し環境緑化整備の推進により山梨県の発展を支えていきたいと考えております。

令和4年5月26日造園建設業会館において、第10回定時社員総会が開催されました。造園事業功労者表彰では、(株)アセラ技建・青沼 拓氏、富士急建設(株)・天野 剛氏、(有)清水造園・清水嘉文氏の3氏が表彰されました。また、来賓として出席した県土整備部小島理事よりご祝辞を頂いた後議事に移り、令和3年度決算について承認され、続いて令和3年度事業報告、令和4年度事業計画及び収支予算について了承されました。

－農林高校 出張出前講座－小庭園作り



▲ 重機を操作する造園緑地科生徒

4月22日、若手の人材を育成し業界への就職を促すため、人材育成事業の一環として昨年に引き続き県内で唯一、造園専門科のある県立農林高等学校の生徒28名を対象に出張出前講座を実施しました。テーマは「自分で造る庭」とし、計画された作庭平面図を基に生徒が建設機械等を実際に操作しながら庭造りを体験学習しました。造園緑地科3年生は1学期に技能検定造園3級を受験しますが建設機械は使用せず手作業での作庭となるため、建設機械を使用しての本格的な作庭は初めてとなり生徒たちの興味も高まっていました。

まずは機械の操作方法及び作業中における安全対策等の講義を行い、続いて図面の読み解き方を学んでもらいました。計画図面を解説することの必要性・重要性などポイントとなる項目をいくつか挙げ説明しましたが、学校の授業とは違う観点からの説明に対し、質問する生徒が多数あり、我々講師陣もどこか嬉しさを覚えた瞬間でした。続いて班ごとに建設機械を使用し作庭作業を開始しました。実際の現場作業時と同じように統括責任者、作業担当者等の役割分担を決め作業手順の確認も行いました。車両・重機の設置位置、使用材料の仮置き位置等細かな点も学習しながら順次作業を進行させ決められた時間内で完成させることができました。

生徒が実に楽しみながら真剣な表情で作業を進めているのを見て、ものづくりの楽しさや大切さを少しでも実感できた講習となったのではないかと感じました。

これからもこの人材育成事業を継続しつつ、業界に就職してもらえる若者を今まで以上に増やしていき、共に山梨の景観づくりに邁進していきたいと考えます。



▲ 石吊り作業



▲ 配置決めを話し合う生徒

－技術講習会－^{あずまや}四阿の鉄平石乱張り

当協会では会員企業の若手技術者を対象に造園技術の向上を目的とし技術講習会を実施しています。10月13日、自然石張り（鉄平石）工の講習会に14名が参加しました。講習会場は県立農林高校にご協力をいただき、校内に設置されている四阿の床部分としました。材料の選択方法から水勾配の取り方、下地・目地モルタルの作成や調整方法、石材の加工方法を学習してもらい四阿の床部を乱張りにより完成させ、造園の表現方法や各作業工程の中で用いられる技術を習得してもらいました。

途中、農林高校造園緑地科1年～3年生全生徒が見学を訪れ、石材の加工・配置の方法の体験学習も行いました。また県県土整備部からも協会の行う人材育成事業の視察を訪れ有意義な講習会となりました。

これからも若手技術者が参加する技術講習会を継続して実施し、個々の技能の向上と造園技術の伝承を推進していきたいと考えます。



▲ 完成した床部分の石張り



▲ 熱心に講習を受ける若手技術者



▲ 石張り作業を見学する農林生徒



公益財団法人都市緑化機構
企画調査部長

上野 芳裕

長野県出身 千葉大学園芸学部卒
現職にて全国都市緑化フェア、
国際園芸博覧会等を担当

はじめに

このたびは、「ぞうえん山梨」に全国都市緑化フェアの紹介の機会をいただき、誠にありがとうございます。緑化フェアは、国土交通省の提唱により、地方公共団体と公益財団法人都市緑化機構が主催する国内最大級の緑と花の普及イベントです。イベントというと、一過性のお祭りのような印象をお持ちになると思いますが、緑化フェアは、開催地域の造園・緑化に関わる業界団体の皆様は勿論、市民、学校、観光や地域振興に関わる事業者等、多くの関係者が開催前の準備段階から計画づくりに参加し、緑化フェア開催で芽生えた都市緑化の重要性の意識を、身近な緑のまちづくりに活かす、そして、将来につながる事業です。これまで、緑化フェアを開催した全国の都市や地域でも、その開催理念やコンセプトをレガシーとして、緑や花に関わるさまざまな活動が続けられています。

1. 緑化フェア開催の背景と意義

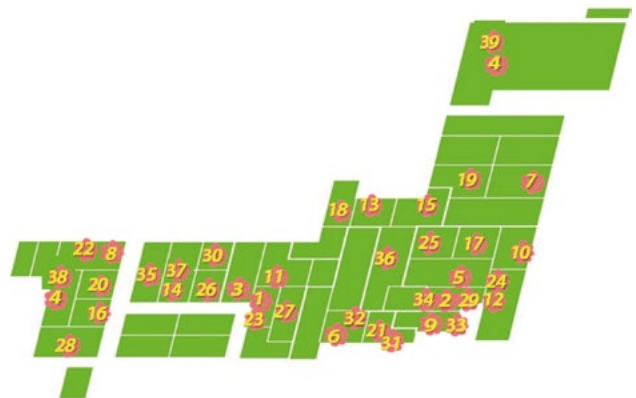
緑化フェアの開催にあたっては、開催都市が目指すまちづくりの将来像と現状の地域社会における課題を踏まえ、地域の要請に合致する事業となる必要があります。最近の社会全般の傾向では、人びとの価値観が「物の豊かさ」から「心の豊かさ」の重視へと移行しつつあり、「みどり」は心の豊かさを具現化するシンボルの一つとして認識されつつあります。中でもみどりの質や、市民とみどりとの関わり方が重視されるようになってきました。そのために行政は、市民の生活における「花と緑のある暮らしの創造」に向けて、緑化施策を積極的に推進する必要性が高まっています。また、暮らしの質の向上に大きく関わる「美しい景観づくり」も最近の重要な行政の課題となっています。

そこで、行政が都市緑化の施策の取組みや情報を一方的に発信するだけでなく、市民や関係する事業者等とともに行動することに重点を置いて地域全体で将来に向けた緑の街づくりを展開することが大変重要であり、そのきっかけとなる事業を市民・事業者・行政の協働によりつくり上げ実施するものとして、緑化フェアのような事業が求められてきています。

2. 全国都市緑化フェアとは

緑化フェアは、1983年（昭和58年）に第1回が大阪で開催されて以来、全国持ちまわりで、令和4年度までに39回開催されています。

山梨県近県では、一番早いのが、昭和62年に埼玉県で「グリーンハーモニーさいたま'87」、静岡県では、平成16年に緑化フェアの同時開催として「パシフィックフローラ2004」、平成26年には、「浜名湖花博2014」の2回開催、平成27年に愛知県で「花と緑の夢あいち2015」、令和元年に長野県で「信州花フェスタ2019」が開催されています。また、岐阜県も令和7年、ぎふワールド・



▲ 図1_ これまでの緑化フェア開催地

ローズガーデン等の県営都市公園を会場に、開催の準備を進めています。(図1_ これまでの緑化フェア開催地)

全ての緑化フェアで共通して掲げている開催の目的としては、①都市緑化意識の高揚、②都市緑化に関する知識の普及、③国、地方公共団体、民間の協力による都市緑化の全国的な推進、ですが、各開催地でそれぞれに相応しい開催理念やテーマを設定いただいています。(表1_ これまで開催された緑化フェア概要)

表1_これまで開催された緑化フェア概要

名称		愛称 & テーマ		
令和元年度 (2019) 第36回 信州フェア	愛称	信州花フェスタ 2019 ～北アルプスの贈りもの～		
	テーマ	北アルプスの麓から広がる 花と緑に包まれた しあわせ暮らし		
	概要・ 〔来場者 数〕	長野県と中信4市(松本市、大町市、安曇野市、塩尻市)の主催による広域開催。県営松本平広域公園をメイン会場として、県中部地区の震災等復興も兼ねた開催〔71万人〕		
平成30年度 (2018) 第35回 やまぐち フェア	愛称	山口ゆめ花博		
	テーマ	山口から開花する、みらいへの種まき ～150年を振り返り、次の150年につなぐ～		
	概要・ 〔来場者 数〕	明治改元150年記念事業として開催。県営山口きらら博記念公園を会場に有料(普通入場券1,200円)での開催で、リピートを含め多くの来場者が訪れた。〔136万人〕		
平成29年度 (2017) 第34回 はちおうじ フェア	愛称	みどりの丘の花絵巻 はちおうじ2017		
	テーマ	自然とまちと人を結ぶ『みどりの環境調和都市』		
	概要・ 〔来場者 数〕	市制100周年の記念事業として地域振興・活性化を目指し中核市としては船橋市に次ぐ開催。市立富士見公園他、市内の6つ公園緑地をサテライト会場として開催〔40万人〕		
平成28年度 (2016) 第33回 よこはま フェア	愛称	ガーデンネックレス横浜2017		
	テーマ	歴史と未来の横浜・花と緑の物語		
	概要・ 〔来場者 数〕	市の行政施策である「横浜みどりアップ計画」推進の節目として「魅力と活力あふれる都市再生」を、横浜港周辺のみなと地区と、動物の森公園の里山ガーデンを会場として開催600万人		
平成27年度 (2015) 第32回 あいちフェア	愛称	花と緑の夢あいち2015		
	テーマ	緑のある暮らしの明日を愛知から 花を愛し、緑のチカラを知る		
	概要・ 〔来場者 数〕	2005年開催の国際万国博覧会「愛・地球博」の10周年事業として、会場となった愛・地球博記念公園で県の園芸産業の振興、同公園の利用促進・整備推進等を目的として開催された。〔メイン会場74万人+サテライト会場247万人〕		
平成26年度 (2014) 第31回 しずおか フェア	愛称	浜名湖花博 2014 ～花と緑の祭典～		
	テーマ	花と緑のオーケストラ ～水辺で奏でる未来の暮らし～		
	概要・ 〔来場者 数〕	2004年開催の国際園芸博覧会「浜名湖花博」の10周年事業として、浜名湖ガーデンパーク・浜松フラワーパークの2公園を会場に、地域産業、地域参加との連携を目指して開催された。〔129万人〕		

緑化フェアで実施されている主な事業

緑化フェアは、開催目的に沿った各開催地の造園・緑化、花卉・園芸等の取組みを広くPRする場として活用され、以下のようなさまざまな事業が実施されています。

(1) 都市緑化意識の高揚に関する事業

緑化の取組みの紹介や花と緑の修景による開催都市の魅力を演出するとともに、都市緑化に関わる活動への参加機会を提供することで、市民一人一人の参加意識の高揚につながる事業



▲ 第33回よこはまフェア
横浜市の花「バラ」を豪華に装飾し、
観光地の更なる魅力を発信



▲ 第34回はちおうじフェア
あらゆる年代層の市民が参加した
市政100年の記念花壇



▲ 第30回とっとりフェア
砂丘をテーマに鳥取特有の風土
景観や資源の理解を深める展示

(2) 都市緑化に係る知識の普及に関する事業

緑の役割等に関する展示や体験型プログラム、講習会等を通じ緑化の知識の普及啓発を実施し、自然や緑とのふれあい、その大切さを理解できるような事業



▲ 第37回ひろしまフェア
花と緑が魅せる
ひろしまの未来シンポジウム



▲ 第32回あいちフェア
都市の緑の役割を紹介する
パネル展示



▲ 第33回よこはまフェア
緑のカーテンづくりなどの
ガーデニング講座

(3) 都市緑化に係る技術の普及・向上に関する事業

公園づくり、造園緑化、花き園芸等の技術の出席、屋上や壁面など都市空間の新たな緑化技術の展示等による普及啓発、フェア開催後の緑のまちづくりに活用できるような事業



▲ 第29回TOKYOフェア
緑あふれるライフスタイルを提案し
技術を競う庭園コンテスト



▲ 第32回あいちフェア
壁面緑化の技術を一堂に
まとめて展示



▲ 第31回しずおかフェア
花き園芸産業の最新の取組みや
技術を紹介展示

(4) 都市公園の利用の促進及び運営の活性化に関する事業

新規の公園、既存の公園とともに、レクリエーションや憩いの場として多くの人々に活用されることが重要であり、これからの社会ニーズに沿った多様な公園利用の姿をモデル的に実施されています。



▲ 第34回はちおうじフェア
家庭やまちなかなど身近な場所での緑化を促すため花苗、肥料、園芸用品等の頒布や販売



▲ 第33回よこはまフェア
「横浜動物の森公園」植物公園予定地の一部をフェア会場として整備



▲ 第24回ふなばしフェア
企業協賛花壇やガイドボランティアの活躍など運営方法の改善により利用が促進

3. 緑化フェアを開催する効果について

緑化フェアの開催にあたり、どのような効果が得られるかという質問が必ず問われます。都市緑化に対する市民意識がどのように変化・高揚したかということは勿論ですが、やはり、経済的な費用対効果が最も関心の高い事柄になっています。そこで、これまでの開催都市ではフェアの開催効果として以下のような項目を整理し実際の経済波及効果も算出しています。

● 多様な主体の参加 → 多様な都市緑化の活動主体が育ちます

緑化フェアはガーデン、ハンキング、ポットなどの花・緑の出展や運営管理に関わるボランティアなど多くの方々の参加によって成り立ちます。出展では造園・緑化関係会社だけではなく、幅広い民間企業からの参加、家族や職場、ご近所仲間、学校などの単位での参加実績もあります。フェアに参加していただいた多様な主体は、フェア閉会後の緑のまちづくりのサポーター(市民側の担い手)として育つ大切な芽となります。

● 社会インフラ整備の促進 → 社会インフラ整備に弾みがつきます

緑化フェア会場や地域の社会インフラ(道路や公共施設の環境施設等)、都市公園の整備促進につながります。既設の社会インフラであっても、リニューアルなど、時代、市民のニーズにあった新しいインフラへと変化できるよい機会となります。

● 公園の利用促進 → 都市公園が賑わい、公園整備の効果が高まります

緑化フェアは、新設または既設の都市公園を主たる会場として開催します。フェア来場者が都市公園で楽しい時間を過ごし、親近感、美しい思い出をはぐくむことはその後の都市公園への利用促進へとつながります。

● 地域・観光振興 → 県内や隣県から多くの方が観光、視察に訪れます

緑化フェアの来場者は、会場を訪れる「旅行」の過程で、緑化フェア以外の様々な消費活動(飲食、お土産代、電車・ガソリン代、ホテル代等)を行うこととなります。これまで開催された緑化フェアでも、来場者アンケートによりその消費額を推定しています。

例えば、平成30年度(2018)第35回やまぐちフェアでは、来場者の消費額を、「産業連関表」の部門に割り当て算出しました。(表2_やまぐちフェア来場者の消費額)

また、第36回信州フェアでは、開催に伴う経済波及効果を次のような手順で算出しています。

まず、実行委員会が支出した工事費や委託料等の事業支出額の総額は14.0億円であり、そのうち県内への事業支出額は8.4億円。また、フェア来場者(705,437人)が県内に滞在することにより発生する宿泊費や交通費等の消費額は33.3億円であり、合わせて新規需要増加額は41.7億円と算出(表3_信州フェアの新規需要増加額の内訳)

表 2_ やまぐちフェア来場者の消費額 (第35回全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会)

(単位:千円)

	県内日帰客	県外日帰客	宿泊客	総額
宿泊費	0	0	1,292,779	1,292,779
交通費	1,248,547	724,908	877,754	2,851,209
飲食費	1,070,321	665,447	842,430	2,578,198
土産代等	634,871	342,779	605,500	1,583,150
レジャー費	64,547	27,399	95,408	187,354
合計	3,018,286	1,760,533	3,713,871	8,492,690

表 3_ 信州フェアの新規需要増加額 (第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会)

A-1: フェア開催による県内への事業支出額 (実行委員会の支出資料から算出)	8.4億円
A-2: 来場者の県内に滞在することで発生する消費額 (来場者アンケート調査より推計)	33.3億円
新規需要増加額の合計	41.7億円

この新規需要増加額を基に推計した結果、直接生産誘発額は 28.4 億円、1 次生産誘発額が 10.1 億円、2 次生産誘発額が 7.6 億円となり、これらを合わせた県内への経済波及効果は、46.0 億円。信州フェア開催に伴う事業支出総額は 14.0 億円であることから、その 3.3 倍にあたる効果もたらされた、と算出しています。(表 4_ 信州フェアの経済波及効果の算出結果)


表 4_ 信州フェアの経済波及効果の算出結果 (第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会)

(単位:千円)

		生産誘発額	粗付加価値誘発額	
			全体	うち雇用者 所得誘発額
直接効果	直接生産誘発額	2,836,296	1,519,207	828,668
間接効果	1次生産誘発額	1,005,612	560,352	280,380
	2次生産誘発額	758,799	476,109	0
合計		4,600,707	2,555,667	1,109,048

4. 新たなステージを向かえる全国都市緑化フェア

これまでの緑化フェアは、都市公園を中心とした会場で概ね 2 カ月程度の期間で開催されてきました。しかし、これからは開催都市の規模や特色にあわせ、まちなかのさまざまな場所で会場を構成し、地域性を活かせる緑化フェアとすることが重要と考えます。例えば、花や緑だけではなく農産部等の「食」や山や河川、溪谷等の魅力

	竹材・木材・石材販売 笠井造園資材 有限会社	一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております! http://www.kouyo.jp/ 街のどこかに KKL
	〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5 TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554	AKT/O グループ 甲陽建機リース株式会社 本社 ●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7801 リース事業部 ●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7821 葦崎ハウス工業 ●〒407-0033 山梨県葦崎市竜岡町下条南側591 TEL0551-21-2302 営業所 ●甲府・塩山・葦崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

的な自然を活かし観光、産業、環境等のとりくみをPRする場として開催したり、県内の伝統芸能や文化活動等のイベントとタイアップしたり、民間施設との連携や企業協賛の獲得等の工夫により事業費を抑えて実施する方法も考えられます。また、山梨県内では「まちなか花壇」や「オープンガーデン」、民間の「庭園・ガーデン」、「マルシェ」等が人気施設となっていることから、これらと連携し周遊することでガーデンツーリズムのような取り組みも可能と考えられます。

今年6月～7月に北海道フェア『ガーデンフェスタ北海道2022』が開催された恵庭市では、国土交通省の「日本ガーデンツーリズム登録制度」に登録されることが決定しました。地域の活性化と庭園文化の普及を図るため、複数の庭園の連携により魅力的な体験や交流の創出を目的とした同制度ですが、緑化フェアの会場跡地がそのまま国内外からの旅行者を受け入れることになります。

こうしたことから、緑化フェアは単なる一過性のイベントではなく、開催県や地域の将来を明るく活発にするきっかけとなる事業であり、緑や花に関わる開催地の造園業の皆様がその取組みの牽引役であり主役になっていただくことを大いに期待します。



▲ まちなか会場の魅力的なストリートガーデン



▲ 個性的なオープンガーデン



▲ 多くの来場者でにぎわうガーデンフェスタ北海道2022メイン会場「はなふる」



▲ フェア開催の主役といえる市民と業界関係者で結成されたサポータスクラブ

LANDSCAPE YAMANASHI



防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
お悩みの方は1度ご相談下さい!

自然と人間(みんな)と一緒に幸せになる仕事

株式会社 白崎コーポレーション

〒916-0076
福井県鯖江市石生谷町 11-23
TEL.0778-42-8353 FAX.0778-42-8515



建設機械レンタル・販売・修理
足場施工

信陽機材リース販売株式会社
日本建設機械レンタル協会

〒409-3852
山梨県中巨摩郡昭和町飯喰 1224-1
TEL(055)275-7411 FAX(055)275-7413
URL <http://www.shinyo-L.com>



LANDSCAPE
YAMANASHI

05

長坂中学校出前講座 ～建設産業の魅力を伝える～



▲ 樹木の特徴・特性の説明

3月15日、北杜市立長坂中学校の1年生55名を対象に出前講座を開催しました。この出前講座は県や建設関連団体で構成するやまなし建設産業担い手確保・育成産学官連携会議が策定したアクションプランの「建設産業の魅力を伝える」施策の環境整備事業となり、当協会では初めての開催となりました。

講座ではケヤキ・イチョウ・クスノキなどの樹木の特徴・特性や樹木の維持管理(剪定等)を説明し、青年部員が校庭内のサクラの木10本を剪定作業する様子を見学学習、木屑を吹くブローワー操作も体験してもらいました。また造園組合の樹木医が長さ138mの白線を宇宙の歴史の138億年

に例え、1m = 1億年として宇宙・生き物の歴史を説明し、時間軸を目に見える形で実際に体験してもらうことにより、記憶に残る授業になったと思います。

今回は初めての試みであり手探りの中での開催でしたが、中学生が目を輝かせながら参加している姿はとても嬉しくやりがいを感じました。



▲ ブローワー操作の体験



▲ 高所作業車による剪定作業



▲ 樹木医の座学

LANDSCAPE
YAMANASHI

06

青年部の活動報告



▲ 緑が丘スポーツ公園にて

◆ 甲府市緑化まつり

5月22日、役員5名、部員3名が参加。子ども向けの高所作業車・重機の体験コーナーを設け、多くの子どもたちに体験してもらいました。

◆ 令和4年度青年部通常総会

6月15日、造園会館にて。新入部員の紹介、昨年度の活動報告及び今後の活動方針について協議しました。

◆ 山梨県林業まつり ～森林フェスティバル～

10月15日、小瀬スポーツ公園にて。役員5名、部員1名が参加。緑の相談所の窓口の開設や樹木の販売、花の種とPRチラシの配布を行いました。



株式会社
山梨環境サービス

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL <https://yks-eco.co.jp/>



日立建機日本特約店(販売・サービス・製造)
国際貢献事業



山梨県南アルプス市上今諏訪564番地の1
TEL 055-282-3211 FAX 055-282-3269
<http://www.nikkenmfg.com/>

LANDSCAPE YAMANASHI 07 協会の動き

◆ 建設業合同企業説明会

7月14日、去年に引き続き二度目の参加。建設業に関心を持つ県内の高校生へ向けて、造園建設業の果たす役割、仕事内容や魅力を伝え、32社の協会企業を周知する良い機会となりました。



◆ 関東甲信造園建設業協会協議会

10月22日、前橋市にて。群馬県造園建設業協会の主催にて1都8県の造園協会関係者70名が参加。3つの分科会形式にて協議会を行いました。



CHECK!

ホームページリニューアル
緑のハンドブック完成

ホームページ ▶



◀ 緑のハンドブック

LANDSCAPE YAMANASHI 08 表彰



山梨ガーデン(株)
代表取締役
依田 忠氏

(一社) 日本造園建設業協会 造園建設功労賞

当協会会長である依田 忠氏は、令和4年6月21日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、功労賞を受賞しました。



中央造園土木(株)
代表取締役
今村 尚人氏

(一社) 日本造園建設業協会 会長賞(業績表彰)

当協会会員である今村 尚人氏は、令和4年6月21日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、会長賞を受賞しました。



富士急建設(株)
造園部部长
萱沼 昭一氏

山梨県環境緑化功労賞

当協会会員企業の造園部部长である萱沼昭一氏は令和4年10月15日に小瀬スポーツ公園で開催された林業まつり記念式典において、環境緑化推進の功績が高く評価され、長崎幸太郎知事より表彰されました。



(有) 清水造園
代表取締役
清水 文一氏

建設雇用改善優良事業所 建設産業団体連合会会長表彰

(有) 清水造園(代表取締役 清水 文一氏)は、令和4年11月24日にアビオ甲府で開催された令和4年度「建設雇用改善推進・建設業労働災害防止表彰式」において、優良事業所として浅野建設産業団体連合会会長から表彰されました。

STIHL®

緑化園芸機材・林業/農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品(スパイク付ブーツ等)
高圧洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機

地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。

山梨スチール株式会社

〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5 <http://www.yamanashi-stihl.co.jp>
TEL: 055-226-3656 info@yamanashi-stihl.co.jp

総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売

有限会社造園資材センター

〒400-0054 甲府市西下条町1346-1
TEL: 055-220-2553 FAX: 055-220-2554

LANDSCAPE YAMANASHI

2022年はコロナ禍の影響で熊本市（3月19日～5月22日）と北海道恵庭市（6月25日～7月24日）の2か所での開催となりました。当協会からは熊本市視察へ4名参加、北海道視察へ11名が参加しました。

～いざ熊本へ～

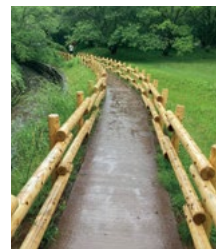


▲ 街なかエリア-シンボルプロムナードの大花壇-

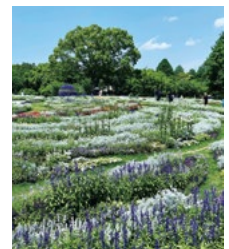
5月12日、日造協熊本県支部吉村支部長のご案内で市街地の中心にある街なかエリアへ。「サクラマチクマモト」の10,000㎡以上の屋上庭園は、滝や池もあり、「熊本城と庭続き」をコンセプトに庭園熊本城主細川家ゆかりの陽春庭を現代に置き換えて表現。メイン会場の花畑広場のシンボルプロムナードには180mの大花壇があり、その脇に道路整備のため立ち曳法で15m移動した樹齢100年以上、高さ18m幹回り3.5mの大クスノキが佇んでいました。また、方々に県外自治体の花壇やオブジェが飾られ、並行して走る路面電車の天然芝が青々と茂る小さな駅もかわいらしく、昼夜問わず多くの観光客で賑わっていました。更にシマトネリコの街路樹が並ぶアーケード商店街が続き、3つのアーケード街の中央には造園技能者協議会や熊本県内の各市町村の作品が展示されています。イベントや商店を楽しみながら歩くと、熊本城へたどり着き、緑化フェアが街の観光と商業

に結びついていました。また、「ぞうえん山梨」に2度の寄稿をいただいた蓑茂壽太郎先生にお会いし、さらに緑化フェア開催をはじめ、都市計画に携わる国交省職員、熊本市職員や熊本県造園建設業協会の皆様にも貴重な意見を伺いました。

5月13日、熊本県造協の山隈氏、松岡氏に終日案内いただきました。立田山憩いの森（150ha）をリニューアルしたまち山エリアへ。市中心地から20分ほど車で移動し、立田山駐車場から美しい里山風景を楽しみながら遊歩道を10分ほど歩くとお祭り広場に到着しました。お祭り広場はツリーハウスや竹の大ブランコなどの遊具があり、芝生広場全体をさり気なく垣で囲い出入口を設置してあるので、子供が山へ迷いこむこともなく、保護者も安心してくつろげる空間となっていました。



▲ 立田山遊歩道



▲ 動植物園



▲ 桜並木の展望デッキ

午後からは水前寺江津湖公園と熊本市動植物園を舞台とした水辺エリアへ。動植物園は35年ぶりのリニューアル。西門には大花壇が広がり、園内の樹木には細かく名札が付いていました。動物園は広々と見学ができます。江津湖沿いには100mの桜並木の展望デッキが新設され、春はもちろん、夏は湖の花火大会、秋の紅葉と景色が浮かびました。

熊本市は緑化フェアを活用して緑を生かした都市づくり、桜町地区開発シンボルプロムナード整備や動植物園・立田山のリニューアルなどを実行していました。また少し離れた熊本駅前も統一感をもって再開発されていました。

～ガーデン王国北海道へ～

7月14日、北海道フェアは恵庭市をメイン会場とし道内32カ所を協賛会場として連携。今回は恵庭市、札幌市から十勝・帯広方面へ。日造協北海道支部四宮支部長にご案内いただきました。秋篠宮家佳子様が式典に出席し、記念植樹を行ったメイン会場の花の拠点「はなふる」には多くの人が訪れ、会場内の土産物屋、飲食店も盛況でした。自治体出展花壇、市町村コンテナ等の花壇に加え、市民活動も盛んで市民参加花壇が大きく広がっていました。また市内の個人やお店の庭も期間公開をしていました。その後札幌市内の街並みやモエレ沼公園を視察しました。

7月15日、300km移動して帯広にある協賛会場の真鍋庭園へ。国内随一のコニファーガーデンや多種多様な樹木があります。甲斐市竜王南部商店街入口に植えられているブ



▲ 市民参加花壇



▲ コニファーガーデン



ンゲンストウヒは、20年以上前に真鍋庭園の育成産品を植樹したもので、当時対応いただいた職員の加藤さんが今回も私たちを案内してくれました。広大な敷地で生産販売している樹木園内で加藤さんとの話は尽きませんでした。

7月16日、協賛会場「十勝千年の森」へ。事業主十勝毎日新聞社の環境貢献活動「カーボン・オフセット（炭素の相殺）」というコンセプトが素晴らしく、英国ガーデン設計コンテストで「世界で最も美しい庭」と評価された広大な敷地を歩きました。

次に六花亭「六花の森」へ。(公社)企業メセナ協議会により「This is MECENAT」に認定され、多くの樹木や山野草と苔、雑草とのバランスも心地よく、気持ちよく歩ける庭でした。



▲ 十勝千年の森

北海道では、恵庭市の「ガーデニングのまち」とした市民活動による街づくり、札幌市の市街地を公園や緑地の帯で包み込もうという環状グリーンベルト構想、大雪から十勝帯広へと続くガーデン街道、と厳しい季節が長い土地だからこそ皆で緑を大事にする気持ちが伝わってきました。

なにかと制限が多かったコロナ禍で、日々遠くの山を眺め、庭の緑に癒され、公園の花、樹木に元気をもらいました。今回は改めて全国都市緑化フェアの基本理念「緑の大切さを認識する」とともに、「緑を愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくり」は今までも、これからも続くコンセプトと感じました。



▲ 六花の森

LANDSCAPE
YAMANASHI

10

(一社) 日本造園建設業協会山梨県支部の活動

甲府河川国道事務所との意見交換会

3月11日、国交省・甲府河川国道事務所との意見交換会を行いました。ハイブリッド会議となり、甲府河川国道事務所からはWebにて5名、山梨県支部からは造園会館にて役員ほか国道の緑地管理担当者を含め10名が参加しました。現場の声を交えながら率直な意見交換会となりました。



▲ 甲府河川国道事務所との意見交流会

関東甲信総支部地域リーダーズ第1回勉強会

11月11日、深川ギャザリア(東京都江東区木場)にて開催された関東甲信総支部勉強会に大塚氏が参加しました。本部との意見交換会

11月16日～17日、群馬県長野原町にて開催された関東甲信総支部と本部との交流会に依田支部長以下3名が参加。1都8県、本部の計43名が参加し、3年ぶりのリアル開催となりました。講演会「ハッ場ダムの経緯」を聴講し、意見交換会では総支部・各支部の現状と課題を話し合い、翌日はハッ場ダム(ハッ場ダム関連造園工事等)の視察に訪れました。

日造協地域リーダーズ勉強会(広島)

11月21日、広島市で開催された地域リーダーズ勉強会に山梨県支部地域リーダーズ大塚広夫氏が参加。地域リーダーズ総リーダー松戸克浩氏(千葉県)、日造協副会長正本大氏(広島県)の挨拶で開会しました。「大災害を乗り越えた奇跡の名園・縮景園」と題し広島県立美術館縮景園主任学芸員・澄川明宏氏の講演、「ひろしま緑の復興平和を象徴する緑の継承」と題し、広島市都市整備局緑化推進部緑政課・佐々木栄治氏による講演が行なわれ、戦後、どのように緑の復興をしてきたか、法律の制定から被曝した樹木の保護や樹勢回復に続く復興の様子を拝聴しました。その後、盛大な懇親会が行われ、全国の地域リーダーズや女性活躍推進部会との交流が図られました。翌日は名園縮景園、平和記念公園、原爆ドームの見学会が開催されました。参加者136名



山梨県造園建設業協同組合では、現在 32 社が加入し、造園に関する様々な業務を行なっております。現在は、山梨県から指定管理者として「武田の杜保健休養林」の管理運営、緑の普及啓発事業として「緑の相談所」を受託し事業を展開しております。

武田の杜保健休養林事業

平成26年度より、武田の杜保健休養林の管理運営を行っており、四季を通じて自然に親しむ様々な事業を展開し、県内外から多くの皆様にご利用いただいております。

昨年からは、武田の杜サービスセンター内に甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンターが設置されるなど、武田の杜の取り組みが高く評価されるとともに、自然に親しみ共生していく事業展開への期待がますます高まっております。

本年の事業では、やまなしグリーンゾーン認証や武田の杜新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染防止に最大限の注意を払い計画していた全事業を実施いたしました。

当組合としては、今後とも新型コロナウイルス感染防止に努めながら、更なる実施事業の充実、適正な管理運営を行い、多くの皆様に愛され安心してご利用いただける施設にまいります。



◆ 武田の杜森林セラピースペシャルツアー

武田の杜では、平成 25 年に森林セラピー基地に認定された良好な自然環境のもと、武田の杜森林セラピーガイドの指導による質の高い保養プログラムを提供しています。

本年は通常の森林セラピーに加え、武田の杜を活用し観光地等の誘客促進を目的とした県の補助金（森林公園等を活用した誘客促進事業費補助金）を受け、武田の杜森林セラピースペシャルツアーを 10 回、131 名の参加者のもと実施しました。

午前中は武田の杜で森林セラピーを体験し、ジャンボタクシーで昇仙峡に移動、昼食後にマイスターガイドの案内による昇仙峡の散策や、工芸士の指導のもと日本遺産に位置づけられた水晶研磨を体験しました。

ツアーは早々に予約が満員御礼となるほど大好評で、参加者は森林セラピーで癒され、美しい昇仙峡の渓谷散策を楽しみ、また、ご自身で綺麗に研磨した水晶をお土産とし、素晴らしい甲府の自然と文化を満喫していました。



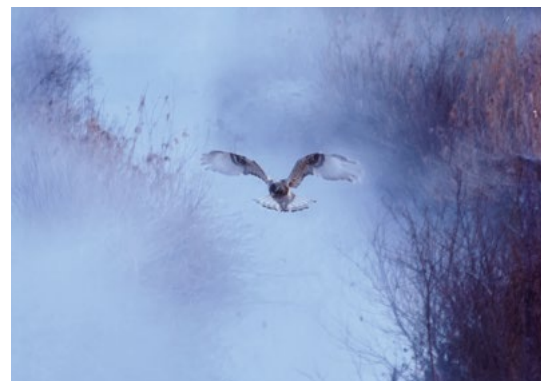
◆ 野生鳥獣写真コンクール（鳥獣センター）

野生鳥獣の保護思想の普及啓発を図るために開催され、平成9年度から始まり、令和3年度で25回目を迎えました。

令和3年度は、県内はもとより全国各地から78名、182点と多くの応募があり、その中から、最優秀知事賞を始め各賞が選出されました。

また、応募作品を展示する「野生鳥獣写真コンクール展示会」を、令和4年4月から約2か月間開催し、多くの来場者がありました。

本年度も、令和5年2月末日締め切りの期限で、現在、募集中です。



▲ 写真 最優秀知事賞
「川霧を渡るケアシノスリ」
上見 正治

緑の相談所

旧山梨県緑化センターで行われてきた緑化相談や緑に関する研修会等ソフト事業につきまして、当組合が県から「緑の普及啓発事業」の業務委託を受け、平成26年度から「緑の相談所」という新たな組織を立ち上げ、県内各地で研修会の開催など県民を対象に緑の普及啓発事業を行っています。

本年も昨年同様、新型コロナウイルス感染防止の対策を講じる中での事業展開となりました。

◆緑の教室

年間34回県内各地の会場において「庭木の手入れ」「樹木の病気と対策」「富士山の植物生態」「萌木の村ナチュラルガーデンウォーク」「甲武信ユネスコエコパークの魅力」等、緑に関する知識や技術の普及を目的とした講座を開催しています。



◆巨樹・名木学習講座

小型バスで県内の巨樹・名木を巡り、現地においてその価値、保全、活用等について樹木医から学ぶ講座を年間8回開催しています。参加申込につきましては、毎回30分程度で定員に達してしまう人気の講座です。



◆緑サポーター

養成研修

緑に関心の高い県民を対象に、地域の緑化の推進及び樹木の診断を行なう者を養成するための講座を開催しています。7日間の講座中、6日以上に参加で県から修了証書が授与され、修了者は(一財)日本緑化センターへ「緑サポーター」として登録することができます。本年も9名が登録しました。



◆特別講座

園芸研究家・ガーデンデザイナーの吉谷桂子氏の講演会を11月8日、140名の参加者を迎え、数島総合文化会館で開催しました。演題を「心を癒す、植物の付き合い方と庭のありかた」として、海外や日本の事例を紹介しながら、四季の植物を愛でる庭、これからもずっと心癒す庭と植物の楽しみなどについて語っていただきました。



◆緑化相談事業他

緑の相談所樹木医及び組合所属樹木医8名が病虫害・剪定・緑化などの緑に関する相談に対応しています。また、小学校等教育機関や各種団体からの要請により、緑に関する研修会を開催しています。

令和4年度第36回通常総会

令和4年5月26日、山梨県造園建設業会館にて第36回通常総会を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた中、令和3年度事業報告・収支決算や令和4年度事業計画・収支予算他の議事が承認されました。



▲ 県庁本館玄関前

武田流門松を展示

山梨県庁本館玄関前並びに山梨県議会議事堂前に武田流門松を展示しました。

武田信玄が考案したと言われ、伝統的技法により作成された武田流門松、新型コロナウイルス感染症の終息を祈願し、2年ぶりの展示となりました。

表彰等

山梨県中小企業団体中央会

令和4年6月3日、アピオ甲府にて開催された山梨県中小企業団体中央会第67回通常総会において、令和4年度組織功労者他の表彰式が行なわれました。山梨県中小企業団体中央会会長より、組織功労者として(株)アセラ技建・久保田茂樹氏、青年部功労者として(有)窪田造園・窪田司氏が表彰されました。

会 社 名	代 表 者 名	住 所	電 話 番 号 / FAX	E - m a i l / U R L
(株)アセラ技建	久保田 茂樹	甲府市蓬沢町1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株)石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
(株)雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有)荻野造園	荻野 陽司	甲府市伊勢四丁目1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp https://www.oginozouen.com
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp https://www.obikane.co.jp
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化(株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木(株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp https://kzd.co.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamaus-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有)坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町印沢18-3	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzouen@beetle.ocn.ne.jp
(有)サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp https://shikishimaryokka.jp
(株)芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp https://shibaho.jp
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市德行一丁目9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏幸	甲府市朝氣三丁目3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(有)東香園	名取 満	南アルプス市十日市場1828-1	055-282-0970 055-282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp https://tou-kou.jimdo.com/
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-lal@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-2	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujikyu-kensetsu.co.jp http://www.fujikyu-kensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	阿部 敏明	甲府市富竹三丁目1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有)美園造園土木	武藤 洋	甲斐市玉川1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukuri.jp/mizonozouen/
(株)明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園974-4	055-282-4128 055-282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン(株)	依田 忠	南巨摩郡富士川町最勝寺1514	0556-22-4181 0556-22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp http://yamanashigarden.co.jp
(有)山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町3608	055-241-2256 055-241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有)吉井造園	吉井 公人	甲斐市西八幡4044-6	055-276-0470 055-230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com

《発行》(一社)山梨県造園建設業協会 〒400-0115 山梨県甲斐市篠原2456-4 TEL.055-279-7328 FAX.055-234-5160 《発行日》令和5年1月1日

(一社)山梨県造園建設業協会

E-mail: info@zo-en.or.jp
U R L: https://zo-en.or.jp



山梨県造園建設業協同組合

E-mail: info@y-zouen.jp
U R L: https://y-zouen.jp



Facebookで「いいね！」してね

山梨県 造園協会 検索

